

月刊 サンエスウォッチング

Vol.30

VIVA ～自転車万歳！！～ (連載コラム: 全12回)

[最終 第12回] ビバ! ベル



1975年のニューサイクリング誌で初めて紹介された「ソネット型」ビバベル、その名も「No.1 スプリングベル」。素材は軽合(アルミ)で後に真鍮やCPや銅メッキ、打ち子(サウンド)タイプやAヘッド装着などが生まれます。

オリジナル第1号 "VIVA" 連載コラム最終回は「ビバベル」のお話を。

"VIVA" は東京五輪から10年経過した1974年に誕生、当時のサイクリングブームを追い風に、フランスやイギリスの自転車スタイルに憧れながらも日本独自の要望を製品化し、旅自転車のパーツ&アクセサリーを数多く生み出しました。

中でも持続的な人気を博しているのがベルです。

1975年発売開始から時が経ち、憧れだった自転車先進国へ逆に輸出することになった「ビバベル」のストーリーは、とても小さな話ですが日本のスポーツ自転車産業の一端を垣間見るような出来事でもありました。

▶多くの愛好家が本場欧州の製品や情報を探し求めていた時代。海外から貴重なルートで持ち込まれた製品から実用性や美意識が吸収されるとともに、土台となって日本独自のアイデアや要望が生み出される源泉にもなりました。そんな要望が持ち込まれ日本での製品化に繋がって行く中でも「ビバベル」は、あるフランスの製品が土台となり、実も美もシンプルなテーマで製作されたのです。

▶フランスに "SONN-NETT" (ソネット) というブランドがありました。ソネットと言っても詩の世界ではなく、sonner に由来する「ベル(リングや輪)」や「鳴る」に意味を持たせた造語と考えられます。言わばベル専門ブランドです。そのベルそのものをモチーフにして製作されたのが「ビバベル」なのです。だから製品紹介では「ソネット型(タイプ)」とされていました。「ビバベル」は、モチーフとなるソネットベルの実用性と美意識をどれだけ超えられるかにこだわりました。近隣町工場の社長と語らい、シンプルが故の難しさの中、如何に近付け追い超すかを探求し現場と何度も調整した末に、形状も音色もスマートで絶妙なバランスのベルを生み出すことに成功しました。

▶「ビバベル」は、ソネット無きあとスタンダードデザインとなり、現在は多くのモデルの土台となっています。「ソネット」のお陰で生まれた小さなベルですが、いつまでも美しく輝き鳴り続ける平和のベルとして大切にしていきたい製品です。



◀フランス "SONN-NETT" (ソネット) の商品箱です。印刷のベルは初期モデルと思われるです。



▶「ソネット」をモチーフとしながらも現代のスタンダードモデルとなった VIVA-BELL。1975年からボディー形状は普通です。



▲台湾のサイクルショップ。ピカピカの真鍮 / 銅メッキ / CP / 重厚な使用品。まるで金管楽器のよう。



▲tokyobike NY. tokyobike ではオーストラリアやメキシコの店舗でも販売されています。



▲tokyobike UK. イギリスでは BROMPTON にも採用されています。



▶LA サンタモニカ近くの陶芸などアート作品を扱うセレクトショップ。下から2段目の中央に、ちょこんと「ビバベル」2つ。

おわりに

1974年当時のリアルな状況を掴むのはなかなか難しいのが現実です。時代変遷の中で、アイデアの在り処、工場との喧々諤々、真実が何処にあるのかと不思議に思うことも増えて来る訳ですが、「ビバベル」のボディーには "UNIVERSAL" という単語が刻印されています。例えば「UNIVERSAL SPRING BELL」など。この「ユニバーサル」について、これは当時どういう思いで刻んだのだろうか…今や想像するしかないのですが、単に何にでも通用するとか汎用性があるとかよりも、普遍的を意味して入れたのではないかと思います。このバランス感溢れる小さく丸っこい形の中に「森羅万象」を見たのではないかと、と想像する2020年の師走です。



VIVA が生まれたばかりの国内自転車展示会に立つ生みの親、先代社長の「坂井 亮」

● 次回、月刊サンエスウォッチング Vol.31 は 2021 年 1 月 8 日 (金) の配信予定です。

TOKYO SAN-ESU CO.,LTD.